

小永井小舟 せいでりぶね 儒者。文政十一年下總國生れ、明治二十一年十一月十日歿（八二元一八）。佐倉藩老職平野重美の末子、安政五年幕臣小永井藤左衛門の婿養子。諱五（獄・密とも署す）、字君山、通稱八郎、變名司馬瀧作、別號綠海。江戸と野田並浦、古賀赤浜に節華、のち羽倉館堂の門に入る。萬延元年八用方下役として、麻呂丸に乗組み、アメリカに渡る。維新後、川田鑿江の勧めで文部省出仕。晩年淡草新編で濠洲塾を開設し、子弟を教授。

著書に『漢史一斑』全四冊（一・二・三・四冊）、『明治十一年四月一日御前、川上九兵衛繪刻出版、長野・西澤喜太郎發兌』、『新評戯曲十種』（乙・明治十四年一月大田武之助出版、丸善書鋪・大田勘右衛門發兌）等。